

2022（令和4）年4月

「奈良県指定文化財調査」の概要について

NPO 法人 奈良まほろばソムリエの会

保存継承グループ

- 【趣旨】 県指定文化財を後世に伝えていくために必要なことは何かを探るため、個々の文化財を訪ねてソムリエ会員の目で現状を検討・評価する。
- 【実施期間】 2020（令和2）年6月～2021（令和3）年10月
- 【対象】 県指定文化財のうち、史跡54件、名勝4件、天然記念物62件、有形民俗文化財23件の4分野計143件。（天然記念物は1件多い63件と考えられるため今回の調査では計144件とした。）
- 【調査先】 史跡54件、名勝3件、天然記念物55件、有形民俗文化財18件で、計130件（対象の90%）。調査見送りは動物の確認が難しい、所有者の対応困難などの14件。
訪問自治体は39市町村中、34市町村に及んだ。
- 【実施内容】 県内を北部、東部、西部、南部の4エリアに分け、保存継承グループの22人がどれかのチームに所属。各チームは原則として3～5人で現地訪問して目視調査、または関係者から聞き取り調査をするとともに写真撮影。チーム内で評議後、担当者が調査票を作成した。活動は全体で36日、参加者は延べ155人。
- 【調査項目】 県指定文化財は県民の財産であり、県民に理解される存在であるべきとの観点から、現地に説明板が適切に設置されているか、表記や管理は適切かを調べた。併せて、現地到着をサポートする案内板が適切に設置されているかもチェックした。その上で、対象の現状、管理状況などについて検討した。
- 【課題】 調査票の「当面の課題」「今後の課題」の欄に記載。その上で、「当面の課題」「今後の課題」のどちらか、または両方が重要と考えられる92件（史跡43件、名勝2件、天然記念物32件、有形民俗文化財15件）の課題を簡潔に記した「課題記入表」を作成した。「課題記入表」を精査し、重要度、緊急性の観点から11項目計68件（10件重複のため実質58件）をピックアップした。
- 【提言書】 特に対応を急ぐ必要があると考えられる3項目計25点を県への「提言書」に記載、その他8項目計43件で対応を提言した。

以上